



## ご飯が食べたくなる小説



**性格は正反対。でも、やっぱり兄弟です。**

戸村飯店青春 100 連発／瀬尾まいこ [913. 6/セ]

大阪にある中華料理屋戸村飯店の長男ヘイスケと次男コウスケを中心にした物語。なんでも器用にこなせる長男ヘイスケは自由奔放な性格で店を継がずに、東京の専門学校で勉強して作家を目指すと言いつつ出します。そんなヘイスケを不器用だけどまっすぐな性格でみんなに愛されているコウスケは快く思っておらず、自分が店を継がなければと考えているのです。そんな性格が正反対な兄弟の関係が変化し、成長していく1年間を描いた小説です。

「美味しいご飯」としては、安いけど旨い！をモットーに戸村飯店の中華料理と、ヘイスケが関わった東京のランチを出す店に注目。

キーワード：小説(兄弟・家族・友人)

## 名著への扉を広げてくれる物語。

九つの、物語/橋本紡 [913. 6/ハ]

9の短編を集めた、連作短編集。死んだはずの兄が突然帰ってきた。大学生のあきなは、とまどいながらも兄と一緒に共同生活をおくることに。不思議な生活を送るあきなのそばには、兄が残した沢山のものがあり、過去の名著(井伏鱒二の『山椒魚』など)が本編とリンクします。

過去の名著を読み返したくなる物語にも注目なのですが、あきなの兄が作る数々の料理がとっても美味しくそうです。個人的にはトマトスパゲッティが一番食べたくなりました。

兄弟の大切さと一緒に料理の大切さを再認識させてくれる素敵な小説です。

キーワード：小説(兄弟、名著)

## 『ホテルジュシー』の愉快な仲間たち。

ホテルジュシー/坂本司 [913. 6/サ]

大学2年生の柿生浩美は、大家族の長女で年の離れた弟妹をもち世話をしていたために、自他共に認める世話焼きの性格に。そんな彼女が夏休みを利用してバイトをして、卒業旅行の費用を貯めるために選んだバイト先は沖縄の宿。最初の宿での働きを認められた浩美さんは、人手が足りなくなった別の宿を手伝うことになったものの、その宿「ホテルジュシー」は昼間仕事のできないオーナー代行や愉快な双子のおばあさんたちが働くところでもない宿で・・・正義感が強く梓にはまりがちだった主人公が、宿での仕事を通して自分を見つめなおす話です。

この小説には沖縄の料理がたくさん出てきます。安くて美味しい沖縄料理を食べたくなる可能性大です！

キーワード：小説(バイト)

## 行ってみたい「食堂かたつむり」

食堂かたつむり/小川糸 [913. 6/オ]

3年間付き合った彼氏が突然夜逃げ。無一文で残された私はショックで声が出なくなり、母親のへそくりを盗みに久しぶりに実家へ帰ったものの、母親に見つかって捕まっています。ホームレスになることを辛うじて免れた私は特技の理を活かして、一日一組だけ料理を出す「食堂かたつむり」をオープンさせることに。そんな私が色々なお客さんと出会いながら料理を振る舞い、少しずつ変わっていく話です。

この小説に出てくる料理は一日一組の料理なので、とつても手が込んでいて、おいしいご飯が食べたくになります。料理は作る側にも食べる側にも喜びがあって、生き方を変える力も持っている。読み終わってそう実感できることができた小説でした。

キーワード：小説(仕事、料理)

～新着図書案内～

A型自分の説明書/Jamais Jamais [141. 9]

中国の歴史 1-10/[222]

クイズ三国志の王様/三ノ輪仁一 [222]

演義・正史三国志武将事典/コーエー出版部編 [222]

イラストで学べる裁判員制度 1-3/裁判員制度研究会 [327. 6]

働く人の夢/日本ドリームプロジェクト編 [366. 2]

おしえて、ぼくらが持っている働く権利/清水直子 [366. 3]

地図を楽しもう/山岡光治 [448. 9]

ドイツのごはん/銀城康子 [596. 2]

ブラジルのごはん/銀城康子 [596. 2]

中国のごはん/銀城康子 [596. 2]

タイのごはん/銀城康子 [596. 2]

トルコのごはん/銀城康子 [596. 2]

ヘキサゴンドリル 2/[798]

光とともに... 13/戸部けいこ [726. 1]

崖っぷちに立つあなたへ/落合恵子 [910. 2/オ]

妖精なアイツ/アポロ [913. 6/ア]

儂い者たち/ERINA [913. 6/エ]

楊令伝 1-5/北方謙三 [913. 6/キ]

鉄鼠の檻 1-4/京極夏彦 [913. 6/キ]

絡新婦の理 1-4/京極夏彦 [913. 6/キ]

メグとセロン 2/時雨沢恵一 [913. 6/シ]

人類は衰退しました 3/田中ロミオ [913. 6/タ]

禁断のパンダ/拓未司 著 [913. 6/タ]

“文学少女”と神に臨む作家 上/野村美月 [913. 6/ノ]

狼と香辛料 8/支倉凍砂 [913. 6/ハ]

黒笑小説/東野圭吾 [913. 6/ヒ]

魔界の塔/山田悠介 [913. 6/ヤ]

この声が枯れるまで/ゆき [913. 6/ユ]